

地域がつながり、ふるさとの誇りをみらいへ繋ぐ、新しい“まちの中学校”

霊峰蔵王山の豊かな自然に抱かれ、蔵王町の全てのこどもたちが学ぶ中学校。ふるさと蔵王町を誇りに思う心を育み、地元や国際社会で活躍する「人が育つ舞台」、町の「多様なつながりの場」となる、統合中学校を考えます。

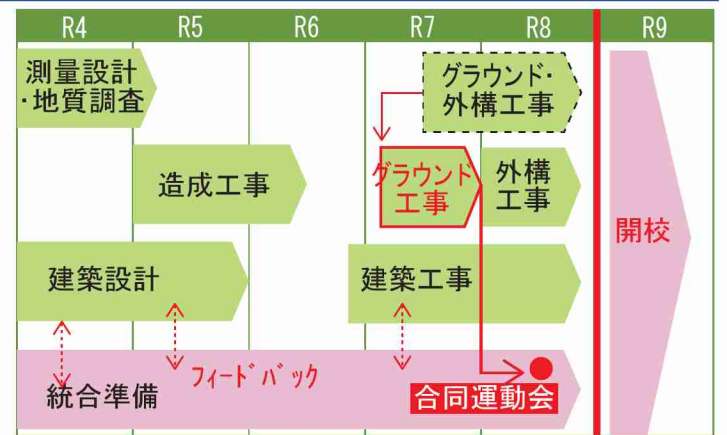
【業務の取組方針、進め方】

1. 対面でのコミュニケーションを重視 打ち合わせの目的と課題の明確化で紡ぐ蔵王町の「思い」

- 設計業務は、社会情勢が許す限り、設計チームの県内メンバーが主体となって対面の打合せを行います。蔵王町の皆様の「思い」をしっかりと理解し、新しい中学校へ確実に反映します。
- 全体会議**では代表者による大きな方針を、**分科会**では現場の教職員等を交えた細部の検討など、目的と出席者を明確にすることで、すべての参加者が討議に加わることのできる有効な会議体とし、高いレベルの学習環境を実現します。
- 打合せには「**検討課題リスト**」を含む**レジュメ**を用意し、「誰が」「いつまでに」課題を解決するかのステップを明確にします。
- 多部署にわたる課題も共有し、すべてを解決した、関係者全員が満足する“**まちの中学校**”をつくりまします。

2. スムーズな統合の動力となる設計プロセス

- 設計のプロセス自体を「**統合のパワー**」とするために、アンケートの実施やヒアリング会を開催します。教職員・生徒・入学予定の小学生・保護者・地域の方からの意見に耳を傾け、確実に計画に反映します。
- 町の将来を担うすべての中学生がこの校舎で学びます。**設計や工事にも生徒・児童が参画**できる方法を検討し、「自分たちで作った学校」であると感じて開校を迎えられるようにします。学校と地域に対するさらなる愛着の醸成と町全体で学校を見守る意識を促します。
- グラウンド工事の発注スケジュールを校舎建築とそろえて令和8年前半に完了させ、**統合前年度**の令和8年度秋の運動会を**3校合同**で実施できないかを検討します。

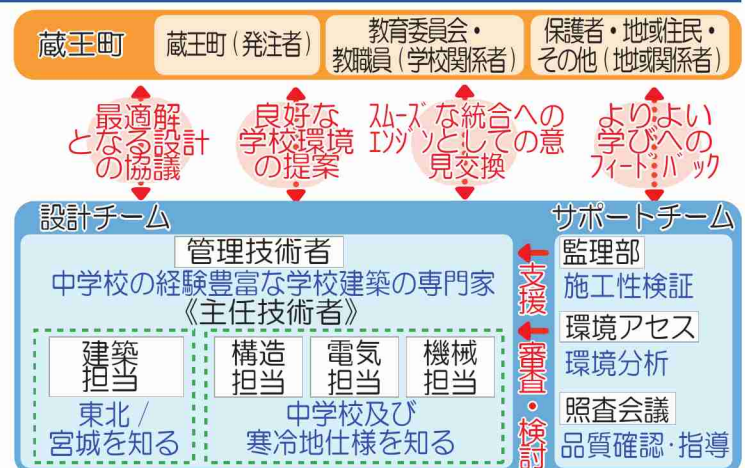


【図1】R8年度に合同運動会を実施する事業スケジュール

【チームの特徴と全体マネジメントの方針】

3. 地域を知る技術者と最新教育施設の専門技術者の協働

- 中学校を知る管理技術者**が中心となって設計チームをまとめます。学校の設計実績が豊富な管理技術者が必要な機能と効果的な提案を実績に基づいた確かな根拠で示し、町の理想の学校像を具現化します。
- 土地を知る各主任技術者**が町の関係者と綿密な対面の打合せを重ねます。県内に拠点を持つ各担当技術者が打合せや現地調査、既存校の聴取を行い、地域や環境に沿った学校のあり方を整理し、具体的な提案で設計へ反映させます。
- サポートチーム**は設計提案に対し、コストチェック、環境シミュレーション、施工計画などの全社的サポートを行います。ISOに基づく自社品質管理の観点からもチェックし、実現性のある高い設計品質を確保します。



【図2】業務実施チームの構成とマネジメント方針

【重要と考える事項】

4. 優れた人が育つ蔵王町の未来につながる場

① 風土・景観・地域と調和する配置計画

- シンボルとしての蔵王連峰への眺望を尊重し、県産材を内装材に積極的に使用して町への愛着と誇りを醸成します。
- 町役場やございんホールなどの町の中心に向けて広場や校門を向け、連携しやすい位置に体育館を配置します。外観は仙南地域広域景観計画に沿った景観を形成し、避難所として町の防災機能を強化します。

② コミュニケーションを第一に考えた学習・生活環境

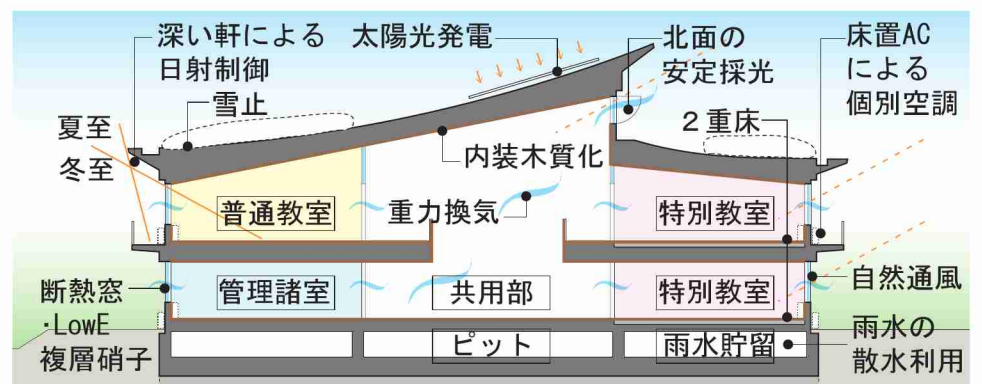
- 少人数、クラス、学年、全校、教職員、地域といった、人々との多様なコミュニケーションを支える様々なスペース(コモンスペース、ステップホール、みんなのひろば等)を計画し、未来につながる学びの場を整えます。

③ 時代の変化に柔軟に対応する平面計画

- 内部間仕切りは可能な範囲でユニット製品等乾式間仕切りを採用し、生徒数の減少による一部の用途変更やICT教育環境の変化へ容易に対応できる計画とします。
- 感染状況の変化に対応できる衛生設備・換気設備とします。

④ 環境負荷の低減を考えた設備計画

- 自然通風・自然採光の確保など自然エネルギーを活かすパッシブデザインが基本の設備計画とします。
- 空調設備、照明設備などの個別制御のほか、太陽光発電などを積極的に採用し省エネを図ります。
- ゆとりある設備スペースとしてメンテナンス性・更新性を高め、学校運営への影響を低減します。
- 断熱・気密・遮音・耐久性といった基本性能の高い建築とします。材料選定でも高い耐久性・保全性を考慮します。



【図3】自然エネルギー・パッシブデザインが基本の設備計画

【スケジュール】

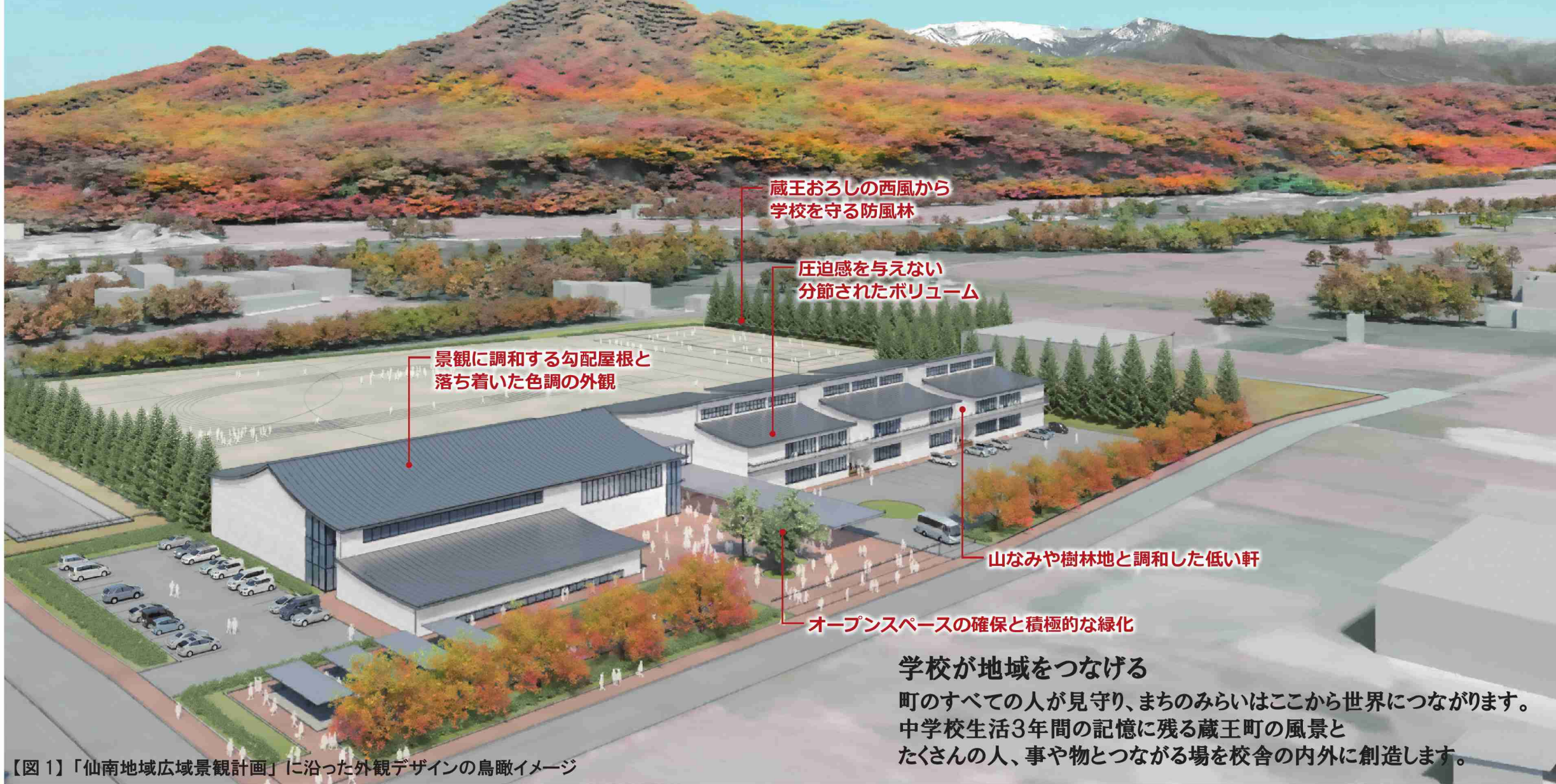
5. 計画の骨組みを検討する基本設計に十分な検討時間をかけます

- 計画の骨子を検討する基本設計に十分な時間をかけます。関係者との協議や検討課題の整理・解決を充実させ、基本設計期間のなかで設計チーム・発注者・学校関係者間の認識を揃えることで、実施設計においても高い設計品質を確保します。



【図4】基本設計を充実させた設計スケジュール

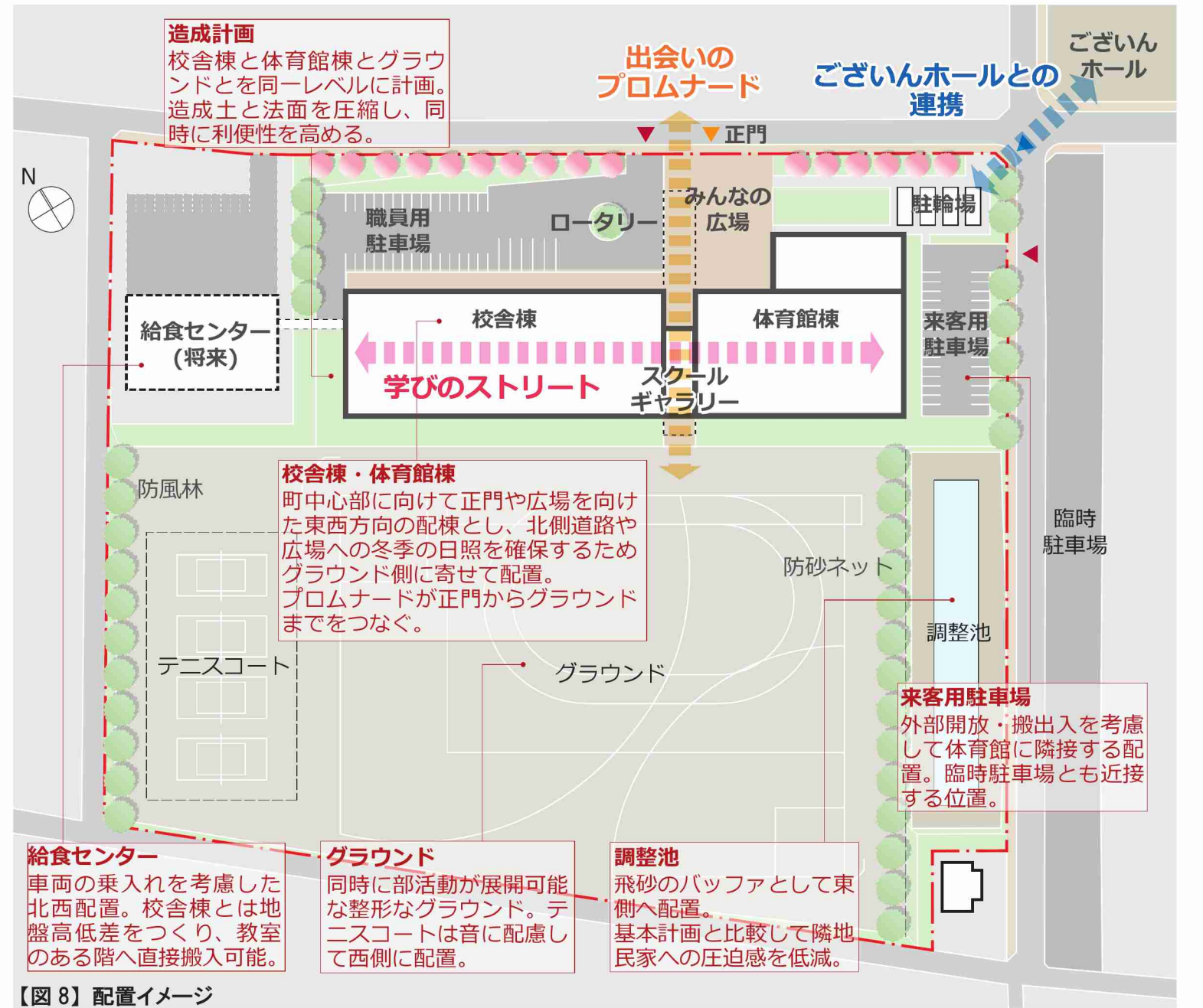
まちのみらいを世界へつなく統合中学校



【図1】「仙南地域広域景観計画」に沿った外観デザインの鳥瞰イメージ

学校が地域をつなげる

町のすべての人が見守り、まちのみらいはここから世界につながります。中学校生活3年間の記憶に残る蔵王町の風景とたくさんの人、事や物とつながる場を校舎の外内に創造します。

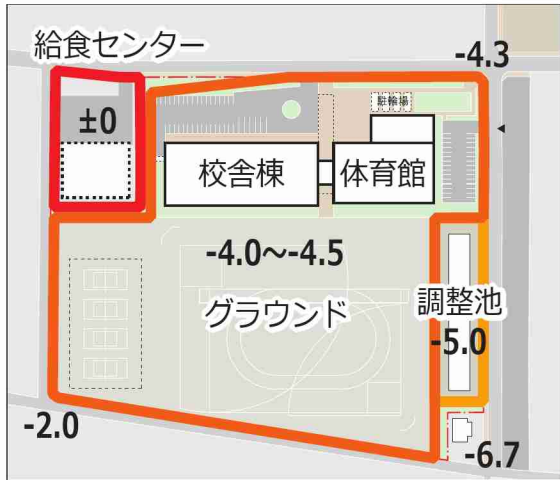


【図8】配置イメージ

【立地条件を考慮し、機能的な土地利用、配置計画の提案】

機能的な同一レベルの施設配置

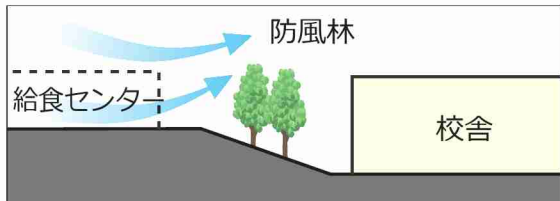
- 融雪型火山泥流マップの浸水範囲を考慮し、造成レベルを変更し校舎棟と体育館棟、グラウンドを同一レベルで設定したバリアフリーに配慮した計画とします。
- 建物を同一レベルにすることで、将来別用途への部分転用時にも道路から独立したアプローチが確保できます。
- 造成レベルを下げることで、造成コストや建物基礎コストを圧縮します。



【図2】造成レベル

高低差と防風林で蔵王おろしから守る

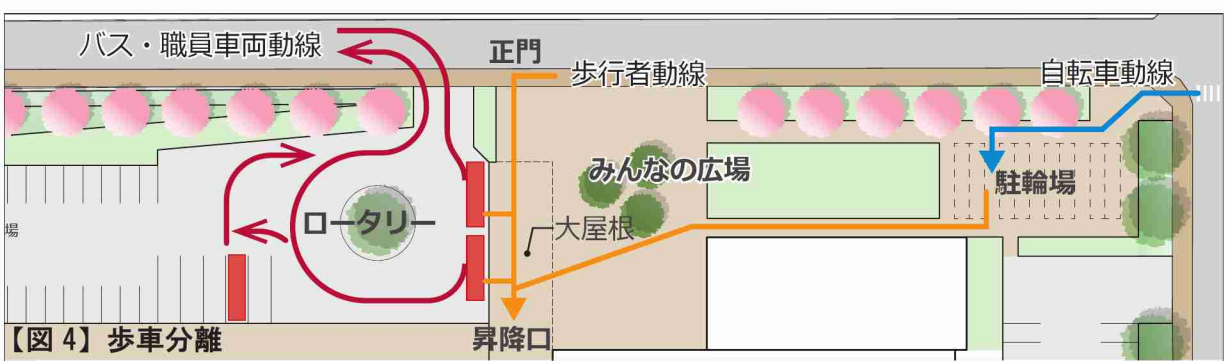
- 校舎の地盤レベルを給食センター予定地より低くするとともに、法面には防風林を設置し西風対策を行います。



【図3】西風対策

明確な歩車分離による安全確保

- 生徒は正門東側、職員車両・バスは正門西側からのアクセスで完全な歩車分離とします。
- 自転車は敷地東に自動車と別に入口を設け、動線交差を防ぎます。

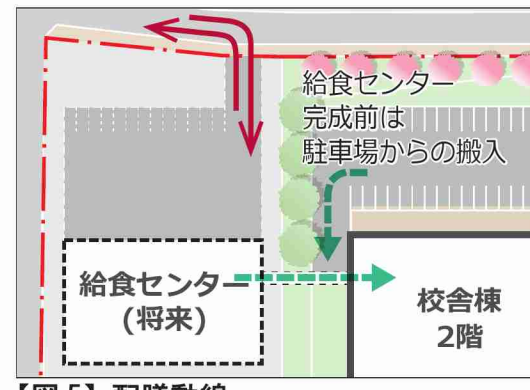


【図4】歩車分離

【給食センター（将来計画）の配置を想定した土地利用計画の提案】

隣地の立地を活かした配膳動線の確保

- 給食センターは西側の地盤レベルを高くし、北側道路からの車両乗入を想定した配置とします。
- 給食センターから校舎2階クラスルーム階に直接搬入可能な施設配置とします。
- 室内動線にて、できたての給食を生徒に衛生的に提供できる動線計画とします。

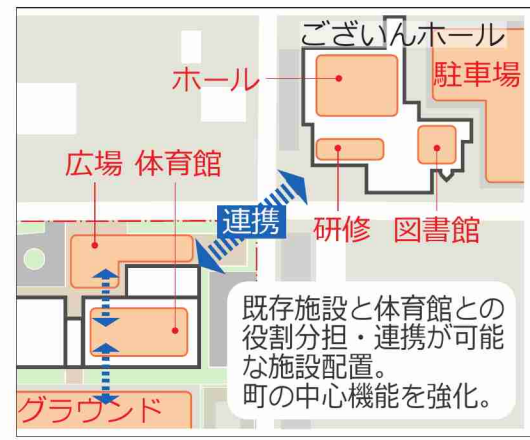


【図5】配膳動線

【周辺地域との関係性を考慮した土地利用計画の提案】

ございんホールとの連携で市街地の賑わいを創出

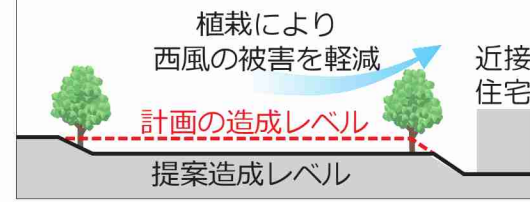
- スポーツ機能としての体育館を文化教養機能のございんホールに近接配置します。
- 体育館・武道場をサテライト会場に利用したございんホールでの大規模イベント等が開催可能です。
- 外部空間の「みんなの広場」を体育館・武道場に隣接させ、開催するイベントの幅を広げます。



【図6】ございんホールとの連携

周辺環境への配慮と学校運営の機能向上

- グラウンドの造成レベルを下げ南東周囲との高低差を少なくすることで、隣接住宅への圧迫感を抑える計画とします。
- 敷地周囲に風に強い樹木を配置しグラウンドからの飛び砂の軽減を図ります。
- グラウンド東側の敷地に対し、調整池の位置を移動することで隔離を取り、影響の軽減を図るとともに、整形で利用しやすいグラウンド形状とします。



【図7】周辺環境への配慮

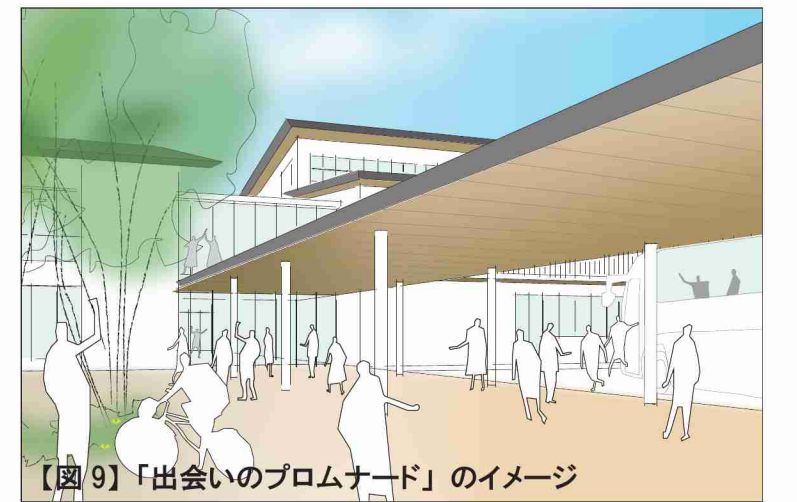
【内外空間の連続性を考慮した土地利用・配置計画の提案】

2つの交流軸線の交錯により創出される新たな交流

- 出会いのプロムナード…正門から校舎を経てグラウンドへ至る南北の軸線
- 学びのストリート…東西方向に展開する学生生活・活動の軸線

バスの乗降口から屋外運動場まで繋がる大屋根

- 来校者の動線として、登下校時に雨に濡れずにバスの乗降ができる動線として、大屋根を設置します。毎朝すべての生徒が通りあいさつを交わす「出会いのプロムナード」として整備します。



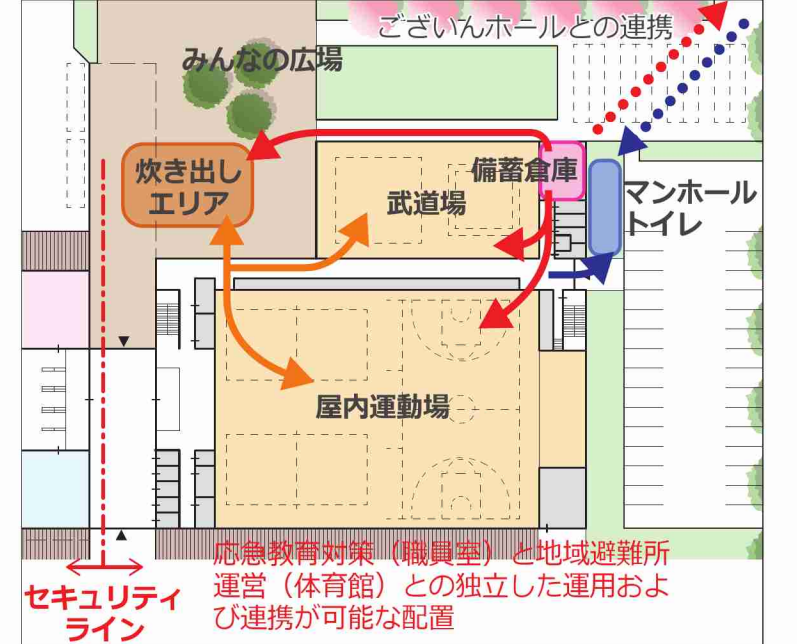
【図9】「出会いのプロムナード」のイメージ

3校の歴史を継承する「みんなの広場」

- 「出会いのプロムナード」に連なる「みんなの広場」には既存3校のモニュメントや植栽を移設し、先輩達の歴史を引き継ぎ人々から親しまれる統合のシンボルとして整備します。

地域避難所としての機能強化

- 地域避難所としての体育館と「みんなの広場」は直接出入りできるようにし、炊き出しや支援物品の仕分けエリアとして連携して使用します。
- 下水道に直結するマンホールトイレはプライバシーに配慮し駐車場側に設置。ございんホールの避難者の使用も考慮します。
- 備蓄倉庫は体育館内外部への搬出動線を確保するとともに、定期的な補給に対応しやすいよう駐車場に隣接した位置とします。
- 校舎棟と体育館棟を分けて配置することにより、長期の避難所運用時においても学校教育を行える運用が可能です。



【図10】地域避難所としての機能強化



【図1】ステージホールにおける活動のイメージ

【生徒の生活、活動の場としての学校の提案】

コミュニケーションを誘発する空間創り

「学びのストリート」に交流の場を散りばめ、多様なコミュニケーションが生まれる空間をつくります。

- | | | | |
|---|---|---|--|
| <p>1.生活の場をまとめる
(生徒間、先生の交流の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の生活の場となる教室を1フロアにまとめます。 教室前の共有空間も1フロアに連続させることで、他学年の生徒や先生と顔を合わせる機会を作ります。 | <p>2.コモンスペース
(学年ごとの交流の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに教室前をコモンスペースとし、グループ学習の場や憩いの場として利用できる空間を作ります。 吹抜や中庭に面し開放的な環境をつくります。 | <p>3.ステージホール
(生徒間の交流の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習発表や作品展など表現の舞台として、日常的な交流の場として、様々なアクティビティが展開し、賑わいと憩いを生み出す「生活、活動の拠点」をつくります。 | <p>4.スクールギャラリー
(地域との交流の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域へ向けて作品展示ができるギャラリーとして整備し、様々な人が生徒の成長を垣間見られる場所となります。 |
|---|---|---|--|

木質化した居心地の良い居場所創り

・地元森林の杉材は空気を含み柔らかい手触りを感じるのが特徴です。内装材や家具など、生徒の手の届く場所へ積極的にへ利用し、あたたかみのある居場所・学習生活環境をつくります。



【図2】内装に木材を使用した事例

中学校生活の記憶に残る眺望

・普通教室は全て青麻山を眺望する南に向けて配置します。各教室は縁側テラスと繋げ、グラウンドの活動への見通しの他、西には蔵王連峰が望め、学校生活の記憶に残る場をつくります。



【図3】青麻山の遠方に屏風岳～後烏帽子岳

【生徒の減少に対応した建築計画の提案】

拡張可能な地域解放ゾーン

・将来、文化サークル等の地域解放も可能な計画とし、特別教室や会議室は管理しやすい1階にまとめ、セキュリティラインを明確にします。

設備のフレキシビリティで将来計画の自由度を確保

- ①特別教室はOAフロアを検討し、将来のカリキュラム変更に対応します。
- ②配管線の主要な箇所は点検しやすいルーバー天井とし、更新や変更を容易にします。
- ③バランスよく効率の良い位置に設備シャフトを計画し、将来の更新性に配慮します。

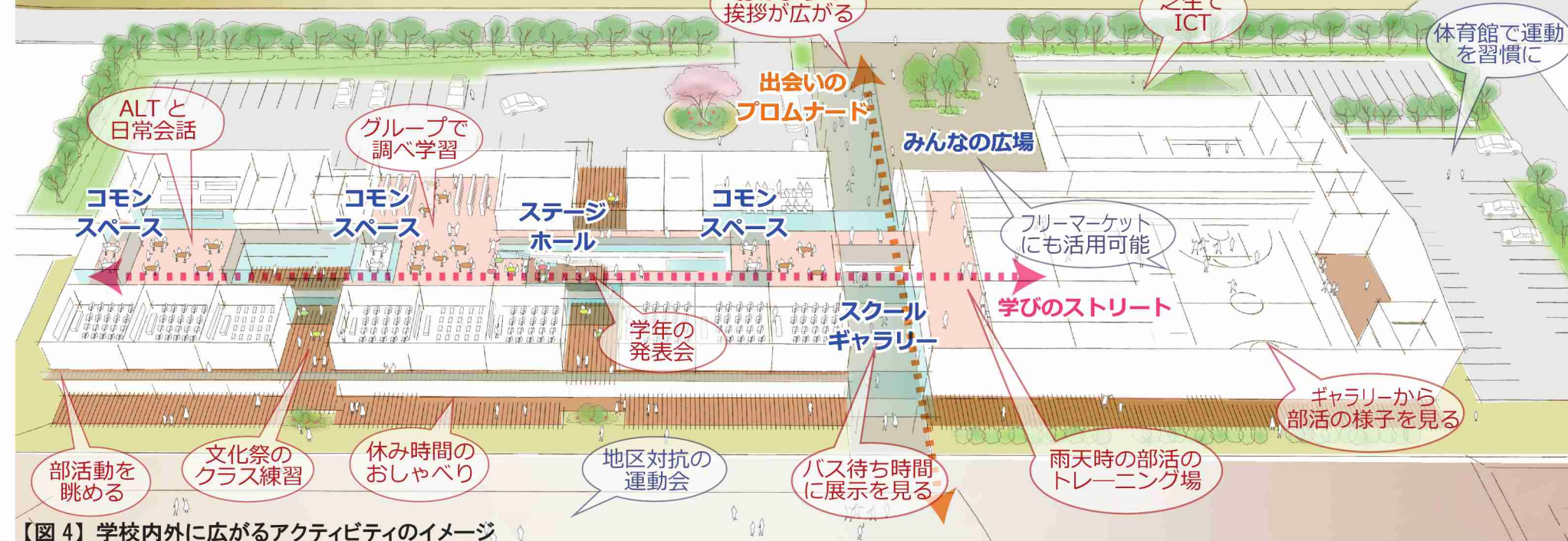
【ITを活用した学校計画、建築計画の提案】

積極的なIT活用をサポート

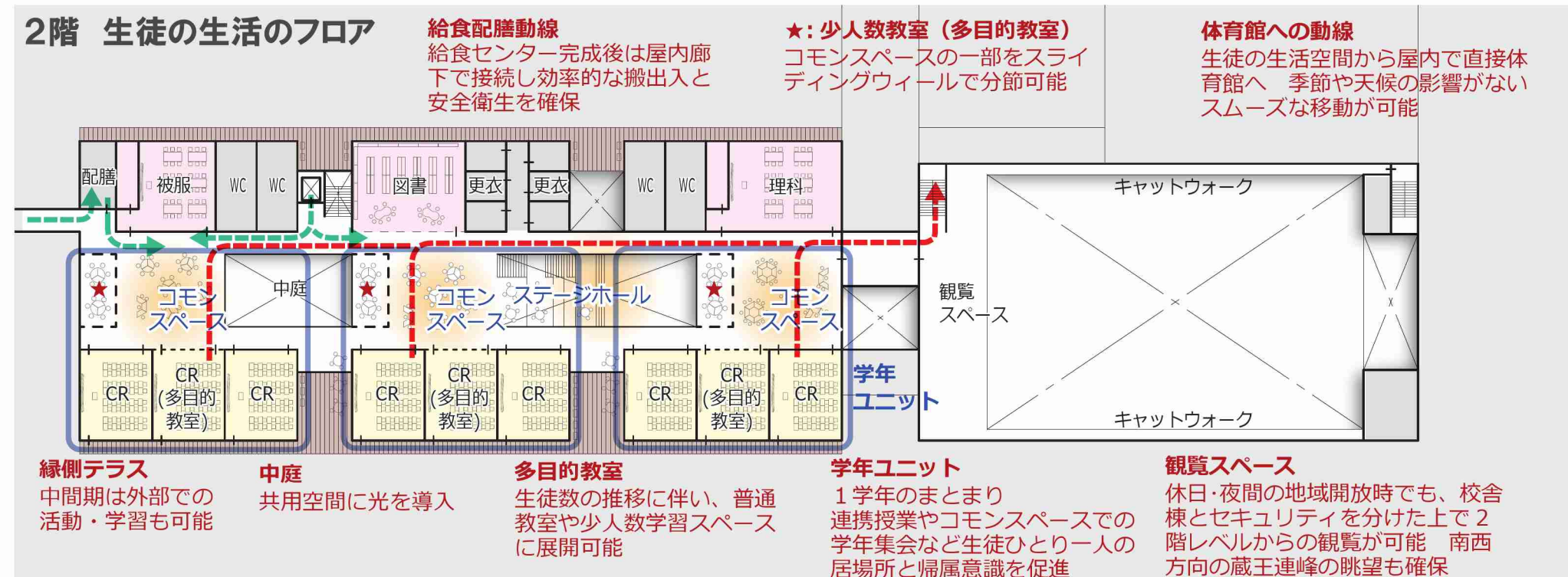
- ・校内無線LANによるICT環境を整備し、タブレットPC等を用いたアクティブラーニングによるフレキシブルな学習形態が可能な計画とします。
- ・機器管理が適切にできるようにIT機器保管スペースをクラスごとに確保します。
- ・学習発表などに利用する大型スクリーンの設置と視認性確保のための調光照明を設置します。同級生の意見を確認しやすい環境を整えることで、活発な学習を支えます。
- ・ICT教育環境の機器の変化に対応できる設備スペースを確保します。

【これからの中学校建築のあり方を考慮した建築計画の提案】

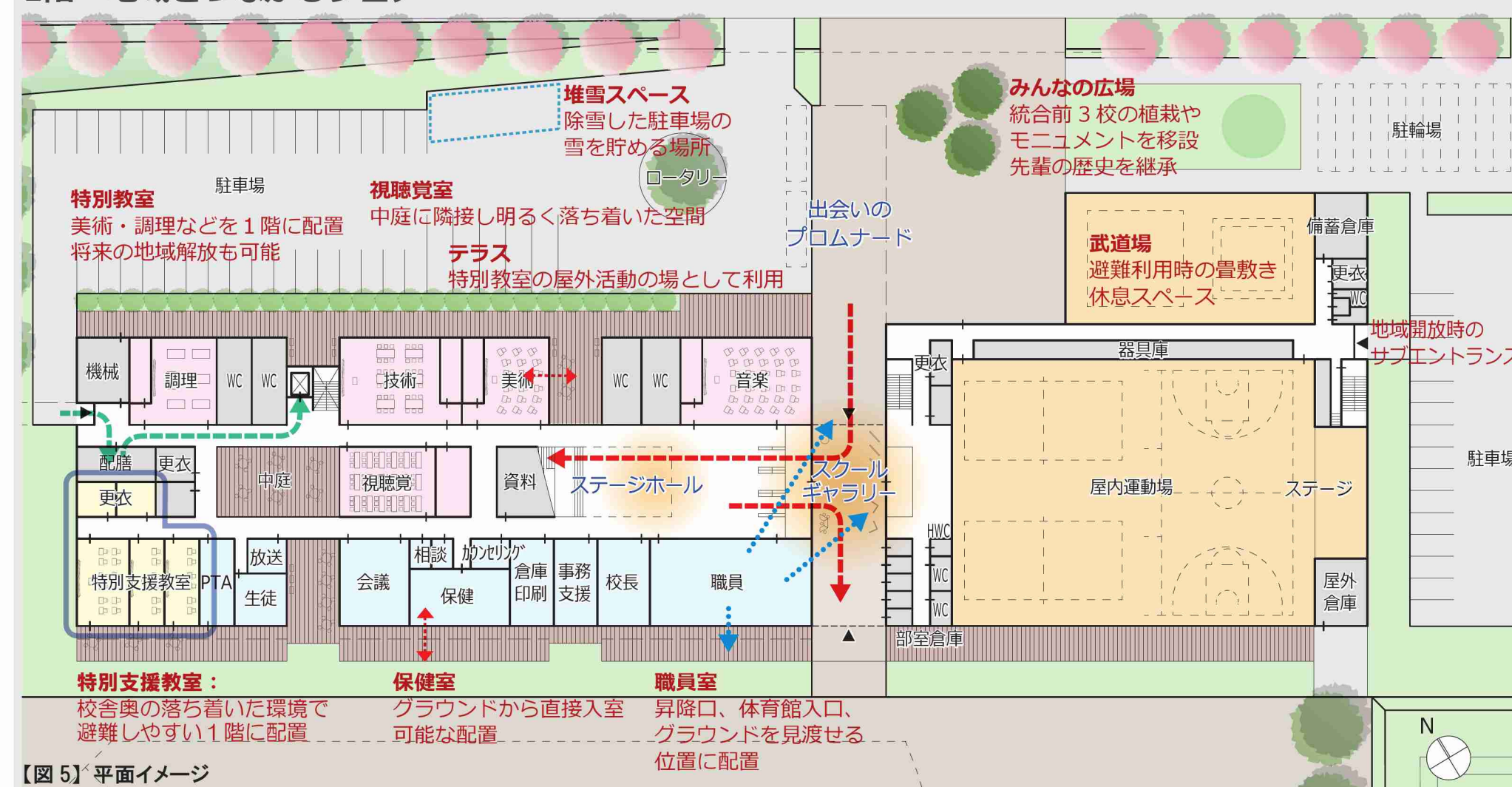
教室以外で生まれる生徒同士・教師・外部講師・地域との交流の場が新たな気づきを誘発し、ともに成長していく賑わいの学校



【図4】学校内外に広がるアクティビティのイメージ

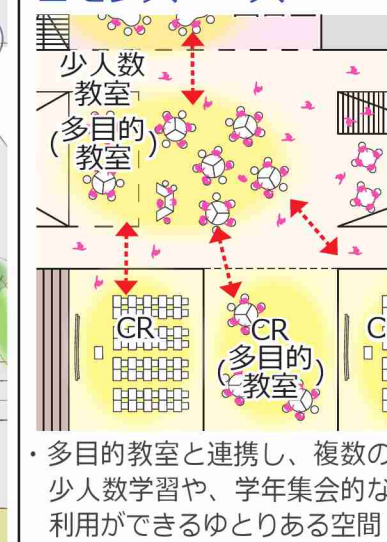


1階 地域とつながるフロア



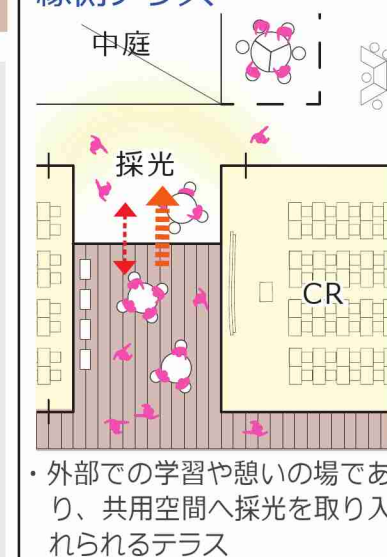
【図5】平面イメージ

コモンスペース



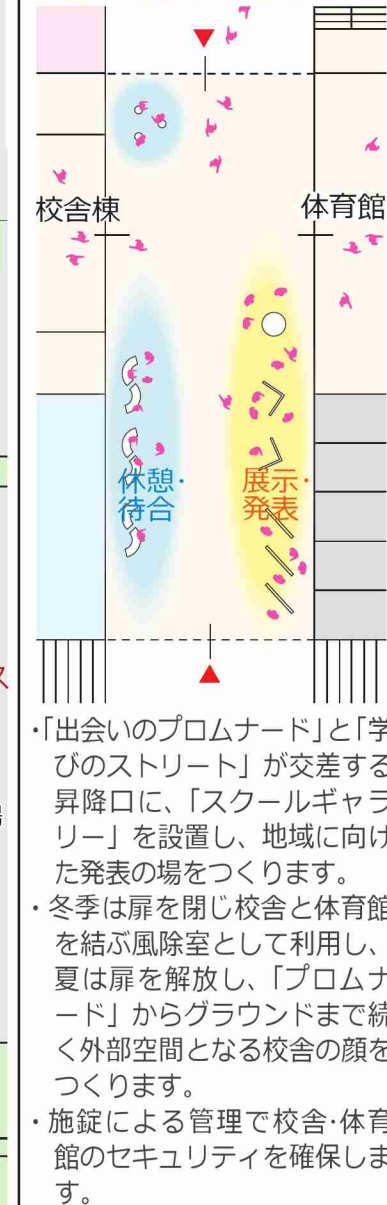
【図6】コモンスペースのイメージ

縁側テラス



【図7】縁側テラスのイメージ

スクールギャラリー



【図8】スクールギャラリーのイメージ